（様式１－１）　　令和６年度　学校評価報告書　　大牟田市立玉川小学校　　ＮＯ１

学校教育目標	志を持ち、自ら考え行動できる児童の育成	重点目標	自ら　考え　動く力の育成

	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結　果（成果○と課題△）	評価	コ　メ　ン　ト	次年度における改善策（案）
重点目標に対する評価	学力の向上 ○基礎・基本の定着 ○個に応じた指導と子供主体の交流活動 ○環境整備 ○家庭学習・読書活動の充実	○個々の学力分析と指導計画の策定 ○毎時間の交流活動の位置づけ ○子供がつくるめあてとまとめの授業	○全国学力学習状況調査・標準学力調査（全国平均） ○市販テスト（８０点以上の児童８０％） ○授業評価アンケート設問⑤「めあてとまとめを自分の言葉で記述」（４段階３）	2	△全国学力・学習状況調査は平均程度であったが、標準学力調査は、平均以下の学年があった。 ○M－ＨＡＴの共通実践のもと、めあてとまとめを自分の言葉で書くことができる児童が増えてきた。 ○校内研究を通して、考えをつくることができる児童が増えてきた。 △個人カルテを作成し、策定や見直しはできているが、それらを指導に生かすことが不十分であった。 △玉川チェックシートをもとに、評価の際に観点を絞って行う必要がある。 △学年通信やリーバーで家庭学習強調週間の意義を説明したが、うまく伝わらない部分もあった。 ○読書クイズや読み聞かせなど、積極的に関わる児童が増えてきた。電子図書の活用をきっかけに読書量が増えてきた。	A	・学校の評価は適切である。 ・めあてとまとめを、自分の言葉で書くことができたり、読書や読み聞かせなどに積極性が出てきたりしたことは、とても素晴らしいことだと思う。 ・学力考査や市販テストの結果を踏まえ、子供の学力実態に応じた学習（授業や家庭学習における課題）が必要である。また、小規模校の特色を生かして、個に応じた（個別の成長を促す）指導を進めていただきたい。個を追跡する取組が大切である。 ・保護者の方が協力しやすいシステムづくりを構築していくことが大切である。。 ・読書活動の推進は、すべてにつながることなので、とてもいいことである。	・上級生に対するきめ細かな指導を継続しつつ、低学年も実態に応じて、少人数授業や取り出し指導などを実施する。 ・交流の目的を教師も子供も共通理解をして、分からないことを尋ねるなど、発達段階に即して交流を通して学ぶ授業の在り方を追求する。 ・きめ細やかな指導を推進するために、個別の教育支援計画・指導計画と一人一人の学力の実態を記した個人カルテとを関連付けて捉える。 ・職員一人ひとりの指導力をさらに向上させるために、玉川チェックシートや授業評価アンケートを週計画に貼り、その観点に沿って指導する。 ・家庭学習に関しては、学習の習慣化と内容の定着化の観点から、必要に応じてＰＴＡの協力を得る。
		○学習形態（少人数指導・TT 学習など）を工夫したきめ細やかな指導による授業づくり ○思いや考えを伝える場の設定	○県学力調査・チャレンジテスト（全国平均） ○授業評価アンケート設問④⑩「グループなどで考えをつくる」（４段階３）	4		A		
		○特別な教育的支援を要する児童への手立ての工夫 ○ユニバーサルデザインの環境整備と学習のあゆみの適切な掲示	○学期に１回以上の実態把握と個別の指導計画・教育支援計画の確実な策定・見直し ○計画的な教室訪問（月１回以上）と評価	3		A		
		○家庭学習強調週間の実施（学期１回）による家庭との連携 ○読書旬間、読み聞かせ活動の充実	○家庭学習アンケート「自分から進んで学習（児童）」「進んで取り組む（保護者）」（８０％） ○児童自己評価「読書旬間のイベントに積極的に取り組む児童」（８０％）	3		A		
	心の教育 ○挨拶や認め合いの充実 ○縦割り活動の充実 ○ボランティア活動の充実と自己肯定感の向上	○目指す姿をキーワード化した挨拶の取組 ○友達のよさに気付かせる学級経営	○玉川チェックシート「進んで挨拶する児童」（４段階３） ○クラス・異学年のいいところ見つけの実施（毎月）	3	○M―ＨＡＴでのあいさつ運動を推奨し、進んで「たまがわ挨拶」をすることができた。 ○目標値を達成することはできた。今後も縦割り活動を工夫して取り組んでいく。 △昨年度よりボランティア活動に取り組む児童の数が減り時期によって差があった。 ○１学期も２学期も概ね目標を達成でき、自己肯定感を向上させることができた。	B	・学校の評価は適切である。 ・学校外で会っても、みんな元気に挨拶をしてくれる。 ・挨拶は、きちんとできていると思う。低学年の児童の挨拶がよくなってきた。 ・小中連携一貫教育の視点からも、引き続き、「あいさつ運動」を推進していただきたい。	・子供たちの挨拶の意識を高めるために、挨拶の観点を明確にした「たまがわ挨拶」を様々な場面で紹介する。 ・子供たちの自己肯定感をさらに高めるために、縦割り活動や役割を持たせた実践に取り入れる。 ・読書の習慣化と多様な読み物との出会いから読書活動の充実を図るために、読書旬間の工夫や読書ボランティアとの連携等を継続して行う。
		○縦割り活動において主体的に活動できる場の設定と手立ての工夫	○児童自己評価「縦割りで協力していますか」（４段階３）	4		A		
		○教育活動全般を通してのボランティアの充実 ○認めあう活動や役割をやり遂げさせることによる自己肯定感・自己有用感の向上	○児童自己評価「進んでボランティア（手伝い）ができる」（４段階３．５） ○生活アンケート「いいところや得意なところがある」「役に立っている」（４段階２．５）	3		A		
	体力・健康の向上 ○運動量の確保と外遊びの奨励 信頼される学校 ○重点目標の達成 ○地域との関わり（ESD） ○小中一貫教育の充実と推進	○体育の授業の運動量の十分な確保 ○休み時間の毎日の外遊びの奨励	○玉川チェックシート「１単位時間３０分以上の運動量の確保」（４段階３）「１日３０分以上外遊びをしている」（４段階３）	3	○運動量を確保する取組（授業・遊び）はできたが、運動の二極化が広がっている。 ○「心をみがく」の項目については課題があるが、他の項目は目標を達成できた。 ○地域の皆様のご協力のおかげで、地域の良さを学ぶことができている。 ○M―ＨＡＴを通して、縦（小中）と横（小学校間）の協力体制ができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・地域学習に関しては、自然観察などで子供たちの行動を見ていると、自然に対する興味、生き物に対する関心、新発見した時の感動、気持ちにゆとりがあるように感じる。 ・M―ＨＡＴを通して、小学校の先生が中１の授業、中学校の先生が小学校での出前授業を行ってほしい。	・体育科の授業において、１単位時間に 30 分以上の運動量を確保し取り組む。また、業間運動や外遊びの奨励を通して体力向上を図る。これらの内容を玉川チェックシートで確認をする。 ・次年度の重点目標「よく聴いて、考える力の育成」の達成に向けて、状況を見取るために玉川チェックシートなどを活用し実践していく。 ・宮原中校区小中間での連携を密にして、共通実践が可能な内容を吟味し、子供も教師もやりがいのある活動にする。
		○重点目標を具現化した４つの実践の達成	○校内研究アンケート「学びをつなぐ」「心をみがく」「体をつくる」「仲間とつながる」の達成率（８０％）	3		A		
		○地域の方の積極的な GT 活用	○地域学習に意欲的に取り組む児童（記述９０％）	4		A		
		○M―HAT（小中一貫教育推進校）との児童・職員の交流と中学校への滑らかな接続	○児童による活動後の振り返り（記述９０％）	3		A		
いじめ防止	○自ら考え行動することを通したよりよい人間関係の構築 ・未然防止 ・早期発見 ・早期対応	○生活アンケート・いじめ防止アンケートなどの実施・分析による早期発見・早期対応 ○アンケート後の確実な教育相談	○各種アンケートの確実な実施と確実な対応（１００％） ○全児童対象の教育相談の実施（１００％）	4	○アンケートと教育相談を確実に実施することで、いじめの早期発見、早期解決に努めることができた。 ○取組を児童昇降口に掲示することで異学年の友達のよさを知ることができた。 ○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰからの専門的な助言をいただき、指導に生かすことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・児童同士でケンカをする場面に何度か出くわした。児童同士で相手の気持ちを尊重することや、ケンカになる前にどうすればよかったなどを考えられるようにしてほしい。 ・保護者対象のアンケート（子供の生活面、いじめ等をチェックする内容）も踏まえた教育相談も行ってほしい。	・各種アンケートや日頃の子供の様子、児童全員との教育相談から児童理解を図り、いじめの早期発見、早期解決に取り組むとともに継続的な見守りや声かけをする。 ・今後も継続して「メルシーポスト」の取組を通して、自他のよさに気づいたり、感謝の気持ちを伝えたりする取組を進める。 ・いじめがない学級づくりに取り組むために、いじめ防止対策委員会で、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等から専門的な助言をいただき、実行する。
		○「思いやり・親切」に関する「メルシーアーチ」「いいところ見つけ」の取組	○児童自己評価「自分や友達のよさを見つけ、言語化できる児童」（４段階３）	3		A		
		○「いじめ防止」研修会の実施と心理・福祉・医療の専門家との連携	○「いじめ防止対策委員会」の実施と各専門家との定期的・組織的な情報交換（年３回、１００％）	3		A		
不登校対策	○つながりを生かした来たくなる学校づくり ・未然防止 ・早期発見 ・早期対応 ・連携強化	○毎日の児童観察や家庭連絡による未然防止の徹底	○全職員による全児童への声かけ、不登校傾向児童の把握と組織的対応、保護者との連携（１００％）	3	△不登校傾向の児童の保護者との連携が不十分なところがあった。 ○学力保障の観点からも、少人数指導などを行い、不安を解消させることができた。 ○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等と連絡を密に取り、関係機関との応援会議を実施することで連携強化につながった。	A	・学校の評価は適切である。 ・いじめ防止アンケートをとり、先生方と子供たちとのコミュニケーションがよくとれて、いじめに対する意識が共有されている。 ・不登校傾向の児童、保護者の対処については、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等だけでなく、担任や管理職も含めた組織的な対応が必要である。	・福岡アクション３に基づいた実践を徹底して取り組む。また、早期に対応をして継続的な見守りや声かけと関係機関とつなぐ校内システムを明確にする。 ・学校と家庭、関係機関（ＳＳＷ、ＳＣ、子ども家庭課など）との連携を図り継続して取り組んでいく。
		○欠席をしがちな児童に対する、早期対応の充実	○「福岡アクション３」の徹底した実践と欠席後の補習や声かけによる不安の解消（１００％）	4		A		
		○地域、家庭、M―ＨＡＴや教育相談室、関係機関との連携強化による不登校防止の取組	○ＳＣやＳＳＷの効果的な活用と連携、関係機関との応援会議の実施（学期１回程度、１００％）	3		A		
働き方改革	○働き方改革を推進した教育の質の向上	○定時退校日の実施（毎週水曜日）	○月間総時間外勤務時間５％の減少（前年比）	3	△定時退校日が守れず、時間外勤務が減らない職員が一定数いる。全職員で声を掛け合いながら超過勤務削減に努める。 ○勤務時間内で業務ができるように放課後の時間を確保する。	A	・学校の評価は適切である。 ・超過勤務については、集計ソフトなどを用いるなどＩＣＴの活用も必要である。 ・先生方は、かなり忙しいと聞いている。あまり、無理をされませんように願っている。	・業務の効率化や改善策について終礼などで話すことで、意識した取組にする。 ・出張後は、基本直帰にするなどして超過勤務削減に努める。 ・職員各自が超過勤務縮減の意識をもって定時退校の日時を設定して取り組む。
		○退校時刻の自己申告の実施による超過勤務の縮小	○職員自己評価で、退校時刻の目標達成率（８０％）	3		A		
		○業務改善推進委員会の実施	○ＰＤＣＡサイクルによる業務（続けること・やめること・改善すること）の見直し（月１回、８０％）	3		A		

◇　評価について　【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）
【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである

（様式１－２）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立　玉川学校　　ＮＯ２

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
	領域	評価の観点	評価指標（①取組指標または②成果指標）	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
総括的評価	教育課程 学習指導	年間指導計画や週案等による共通理解・共通実践	○学期ごとのカリキュラムマネジメントと週計画案の量的・質的管理に関する指導助言及び教室訪問（月１回）による職員や児童のよさや課題の把握	3	○日常的な教室訪問やペア授業研（学期に１回）、週案を通した担任とのコミュニケーションにより、少しずつ改善が見られた。 ○実態に応じて適切な配置ができたことで教育効果が上がった。	A	・学校の評価は適切である。 ・カリキュラムについては、宮原中学校区の学校と比べて、共通実践できる部分は、進めていただきたい。	・学期毎にカリキュラムについての見直しや確認を行い、具体化して取り組んでいけるようカリキュラムマネジメントを進める。 ・市少人数等の非常勤講師も活用し、個に応じた指導の充実を図る。
		効果的な指導方法の工夫	○市少人数、配置適正化等の非常勤講師や管理職も参加した少人数指導の推進	3		A		
	進路指導	望ましい勤労観等の育成	○体験活動の充実（勤労奉仕活動、ボランティア体験、委員会活動、学校行事の係活動）	3	○係活動や委員会活動など、自分のよさを生かして活動することで、意欲的に学校生活を送ることができた。 △ボランティア活動が、時期によって、できた時とそうでない時があった。	A	・学校の評価は適切である。 ・ボランティア活動が少なくなってしまったのは残念だが、玉川小は地域の方と接することが多いので、仕事の内容を聞くだけでもキャリア形成につながると思う。	・地域の方にご協力いただくだけでなく、子供たちの学びが、地域の方や地域の自然に役立つよう、ESDの推進について改善を行う。 ・キャリアパスポートを活用し、計画的にキャリア教育を進めていく。
		キャリア形成と自己実現	○「キャリアパスポート」を活用し、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	3		A		
	生徒指導	児童理解の充実	○児童に関する情報の共有とアンケートによる実態把握及び年３回の教育相談の確実な実施	4	○アンケートの確実な実施と内容の共有、年３回の教育相談を行うことができた。また、いじめ防止対策委員会を開催し、ＳＣを交えて全職員で情報共有して取り組むことができた。 ○問題が起きた時は、役割を分担し、組織的に対応することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・早めの対応ができているので、継続していただきたい。 ・全職員が共通理解する場があり、それを受けて児童の教育に当たってあるという姿勢は、とても素晴らしいと思う。今後も引き続き指導に当たっていただきたい。	・いじめはどこの学級・学校でも起こりうることを意識して、常にアンテナを張り子供たちの交友関係や心理面を見取っていく職員集団をめざす。 ・ＳＣ(ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ)やＳＳＷ(ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ)、必要に応じて子ども家庭課との連携を一層強くする。 ・管理職への報告・連絡・相談を徹底することで、組織的対応に取り組む。また、終礼等でも細かく話すようにする。
		発達を支える生徒指導の推進	○生徒指導の４観点（自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場、安全安心な風土）を意識した学級・授業づくり	3		A		
		困難課題対応的生徒指導への組織的対応	○管理職・担任を中心とした面談・指導と関係諸機関との連携した組織的な対応	4		A		
	保健管理	健康指導の充実	○保健学習、保健指導の充実と環境衛生の管理 ○感染症防止教育、薬物乱用防止教育等の促進	3	○養護教諭を中心に、ＧＴを活用して計画的に健康指導を行うことができた。 ○栄養士・調理員・養護教諭・保護者と連携し、アレルギーの事故防止に努めた。	A	・学校の評価は適切である。 ・最近、子供たちの視力低下や睡眠不足などの問題を耳にする。スマホ等の使い過ぎによる健康被害についても指導していただきたい。	・これまでのように、年間を通して養護教諭を中心に協力を得て保健学習、保健指導を行い、健康指導の充実を図る。 ・複数の目で食物アレルギーの食材について点検・確認し、食物アレルギーの事故防止に努める。
		学校給食の管理と食育の推進	○食物アレルギー対応の取組と事故防止、健康につながる食育の計画的推進	4		A		
	安全管理	安全教育の実施	○避難訓練、不審者対応教室、防犯教室、交通教室等自他の命や安全を守る教育の計画的実施	3	○避難訓練や防犯教室等、命を守るための各種教室を計画的に実施できた。 ○月１回の安全点検を行い、施設の修理などを迅速に行うことができた。 △イノシシに対する対策がまだ不十分であるため、更なる対応が必要である。	A	・学校の評価は適切である。 ・イノシシ対策については、猟友会や地域の協力を仰いで対策をするとともに、遭遇したときの対処の仕方にして指導をお願いしたい。 ・イノシシ対策は、地域の方からの情報を踏まえながら、捕獲箱の設置も必要ではないか。	・異常気象、不審者、交通事故、学校事故など子供を取り巻く危険や危機を、子供たち自身で感じたり、危機回避の行動の取り方を知ったりできるよう、訓練や学習を通して学ばせるようにする。 ・イノシシ対策も各種機関と協力して、安全対策の重点的な課題として取り組むようにする。 ・地域の方や児童からも危険箇所の情報を収集するなどして子供たちの安全を守れるよう取り組む。
		教育活動中の安全対策	○全職員による安全点検の確実な実施（毎月初め） ○校内施設に係るけがの防止（前年比１０％減）	3		A		
		登校・下校時の安全対策	○通学路の安全点検、ＰＴＡ・地域との連携や地域ごとの集団下校による危機回避の指導	3		A		
	特別支援教育	特別支援教育推進体制	○特別な支援が必要な児童の把握と個別の指導・支援計画の作成、関係機関との連携（相談室など）	4	○配慮が必要な児童を複数の目で見守り、保護者と懇談することで、検査や相談を通して関係機関とつなぐことができた。 ○特別支援教育の研修会を通して、個に応じた指導の重要性を再確認できた。	A	・学校の評価は適切である。 ・特別支援教育の推進に当たっては、十分に対応され、推進されてあると感じた。	・個別の指導計画、支援計画を全職員で共有し、よりよい指導に努める。また、特別支援教育支援員を中心に個人カルテに記入して共通理解を図る。 ・学級担任と特別支援教育支援員との情報交換を適時行うことで共通理解を図り、個に応じた指導の充実ができるようにする。
		特別支援教育に関する研修	○全校授業研修会の実施（個に応じた指導）及びインクルーシブ教育システムに関する研修	3		A		
	組織運営	校務分掌の機能化	○各主任のリーダーシップの発揮と連絡・調整による共通理解・共通実践とその評価	3	○各分掌の主任を中心として共通理解・共通実践を行うことができた。 △計画を立て実施することができたが、振り返り（改善策）が不十分だった。	A	・学校の評価は適切である。 ・人材育成も考慮した校務分掌の配置が必要である。	・各分掌に複数の職員を割り当てることで、重点目標達成に向けて、学校経営全体に参画するシステムをつくる。 ・児童数減少に伴い、場合に応じて近接学年を集団として教育活動を実施する。
		重点目標達成のための組織マネージメントの確立	○重点目標達成のための各分掌の取組の計画と実施、その指導体制の確立	3		A		
	研　　修	校内研修（主題研・一般研）の充実	○全員による研究授業の実施 ○講師招聘及び校内講師による研修会の実施	3	○年３回以上の研究授業を実施することで、日常実践化を図ることができた。 △キャリアステージに応じた研修が十分にできなかった。	A	・学校の評価は適切である。 ・研究授業に限らず、ベテランの師範となる授業を若年教員が参観することも大切である。	・小規模校の良さを生かしつつ、研究の日常化を図ることができるように、授業者とパートナーでペアを組み、授業改善を図っていく。 ・職員のキャリアステージや希望に応じた研修の機会の提供や全員が講師を経験する校内研修を設定する。
		キャリアステージと校務分掌に応じた研修の推進	○各職員の目標に応じた専門研修等の受講、研究発表会のへの参加奨励（Plant の活用）	3		A		
	教育目標 学校評価	教育目標達成をめざす学校評価の実施	○重点目標達成状況調査（毎月）に基づく評価・改善・充実	3	△全校朝会等で重点目標の振り返りを行ったが、実施回数が少なかった。	A	・学校の評価は適切である。 ・重点目標を振り返る機会を増やすことで、意識づけを行ってほしい。	・評価項目の精選や取組の重点化を図り、客観的に学校の教育活動を評価できるように努める。
	情報提供	各種通信・ＨＰ等による積極的情報発信	○学校便り、Ｍボード、メール、学年・学級便り、保健・給食・図書館便りの定期的な発行	4	○学校からの各種便り、Ｍボード、メールにより、子供たちの様子や学校からの連絡を迅速に発信することができた。 ○各会議での情報を双方向に共有することで、連携・協力を図ることができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・Ｍボードが配信されるたびに、楽しく拝読させていただいている。情報伝達が早くてびっくりしている。	・引き続き、Ｍボード、学校便り等を通じて、こまめに学校の教育活動の情報発信を行う。 ・Ｍ－ＨＡＴ、まち協、民児協、玉川校区SDGs/ESD 活動委員会、地区公民館、PTA と連携して教育活動を推進していく。
		Ｍ―ＨＡＴ・地域・家庭との双方向の情報発信	○Ｍ―ＨＡＴ会議、学級懇談会、ＰＴＡ会合、校区まちづくり協議会等関係機関との連携・協力体制	3		A		
	保護者・ 地域との 連携	保護者との連携強化	○各種ＰＴＡの会合、家庭訪問、懇談会、各種お便り等での啓発	3	○地域からの情報を速やかに届けていただいたり、学校からの情報を地域につなげていただいたりして、しっかり連携・協力をすることができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・もっと地域の方々に学校行事等に参加していただき、子供たちや保護者との関係づくりができると良いと思う。	・これまで以上に PTA、地域の方々とふるさと学習を推進する活動を行う。また、子供たちに地域のよさを味わわせ、進んでよりよく問題を解決する力をつけるとともに、町おこしに貢献できる力を育てていく。
		地域住民との連携強化	○地域住民との連携、まち協、民児協等との連携、行事への参加と地域学校協働活動の充実	3		A		
	教育環境 整備	学校施設の環境整備	○教室や廊下の掲示物の定期的な更新、校舎外の施設や設備の点検・整備の充実	3	○掲示物の更新や施設の点検など、定期的に実施することができた。 ○事務職員と相談しながら、優先順位をつけながら実施することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・校内の掲示物は、来校の際いつも拝見させていただいている。児童の自信にもつながるため引き続き取り組みをお願いしたい。	・校内の安全に関して、児童からの情報や全職員によるローテーションの安全点検を通して、全ての教育活動の安全な実施に努める。 ・掲示物を定期的に刷新できるよう、時間設定をするとともに、学校全体の環境作りを計画的に行う。
		校内の環境整備	○配当予算の計画的な執行による、備品購入や修理・修繕の実施	3		A		

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである